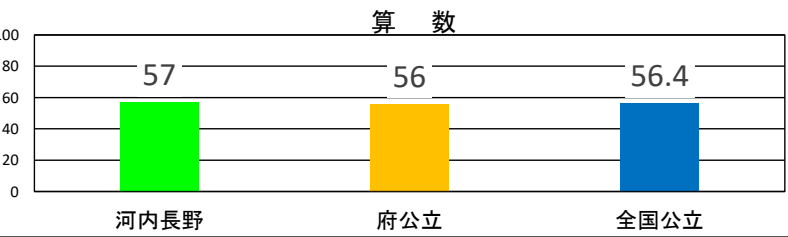
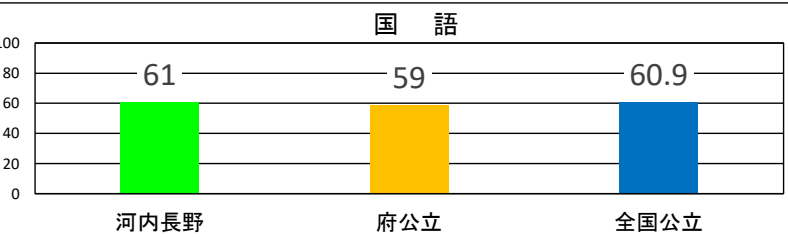


令和8年度 全国学力・学習状況調査結果考察【概要版】

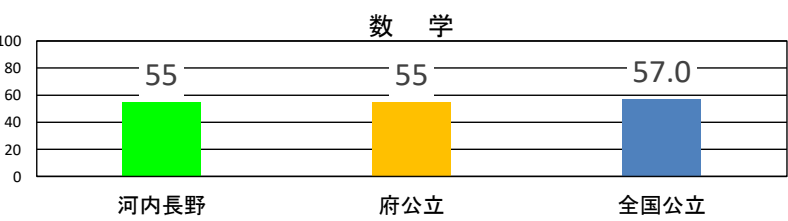
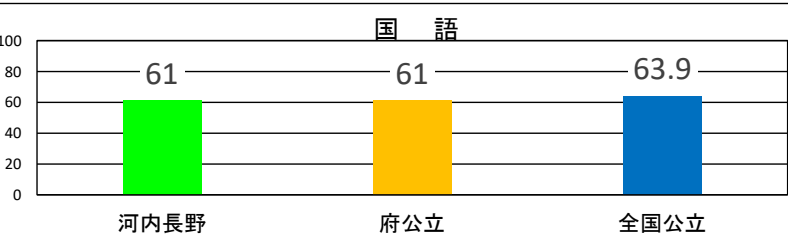
令和8年度全国学力・学習状況調査について（令和8年4月23日実施）

- 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の対象
 - 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。
なお、公立学校には公立大学法人が設置する学校を含むものとする。
ア 小学校調査 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部第6学年
イ 中学校調査 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部第3学年
 - 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下の事由がある児童生徒は、該当する当該事由の教科について、原則として調査の対象としない。
ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

《小学校 平均正答率の比較》



《中学校 平均正答率の比較》



中学校英語

	河内長野市	府公立	全国
平均正答数	4.1/9	4.4/9	4.5/9
聞くこと	1.1/2	1.2/2	1.2/2
読むこと・書くこと	2.4/5	2.6/5	2.6/5
話すこと	0.6/2	0.6/2	0.6/2
IRTスコア	498	497	499

令和8年度 全国学力・学習状況調査から確認できた成果と課題

成果について

☆全体について

- ◎叙述を基に文章全体の内容を捉え、要旨を把握すること
- ◎比喩や反復、漢字など基礎的な知識・技能の習得

☆各教科について

- ◎小学校 国語：目的に応じて必要な情報を見つけること
算数：単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えること

- ◎中学校 国語：気持ちがより伝わるように、表現の効果を考えて、描写すること
数学：反比例の関係を表す表からxの値に対するyの値を求めること
英語：日常的な話題について、必要な情報を聞き取ること

課題について

★全体について

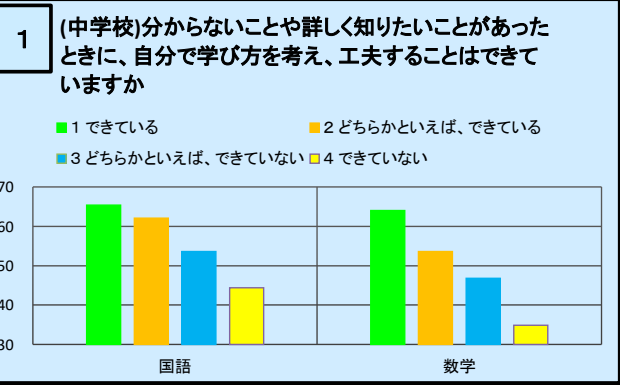
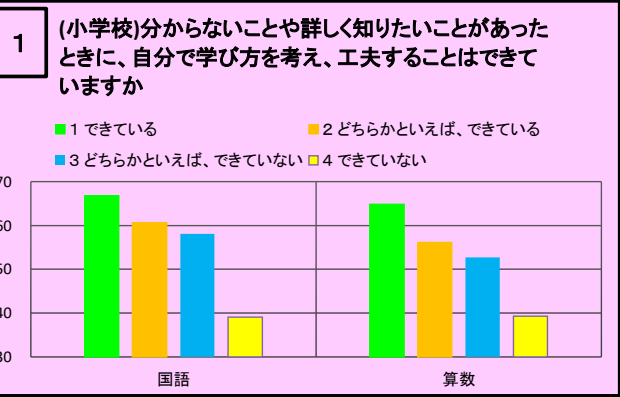
- 目的や意図に応じて、条件を満たして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
- 複数の資料から、自分の考えを表すための根拠として必要な情報をまとめること

★各教科について

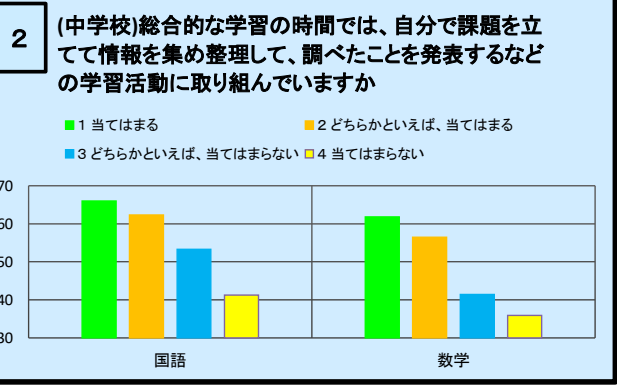
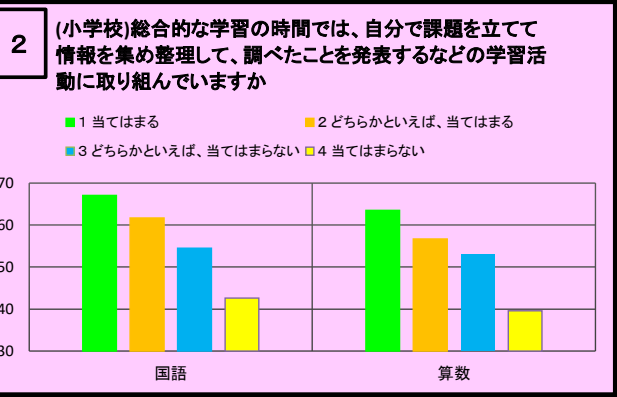
- 小学校 国語：引用するなどして自分の考えが伝わるように工夫しながら条件を満たして書くこと
算数：基準量、比較量、割合の関係が正しく示されている図を選択すること

- 中学校 国語：互いの立場や考えを尊重しながら結論を導くために条件を満たして自分の考えを記述すること
数学：データの傾向を的確に捉え判断の理由を形と位置の2つの特徴を基に説明すること
英語：与えられた情報に基づいて、簡単な英文を書くこと

＜学校での授業についての児童・生徒質問事項①②は質問調査×国語・算数(数学)クロス集計※から＞（※質問の回答の違いによって国語や算数の結果にどのような傾向があるかをみる集計）



小・中学校ともに、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の設問においては、全国と比較して肯定群が小学校では3.3ポイント、中学校は2.6ポイントが高く、より工夫できていると回答した児童生徒の方が正答率が高い結果であった。河内長野市がめざす「自分で考え 自分で決めて 自ら行動する」有能な学び手が育つ学校教育の実現に向けて、児童生徒が自己調整しながら学習をすすめていくような授業づくりを進めていく。



小・中学校ともに、総合的な学習の時間での探究的な学びのサイクル(課題設定・情報収集・整理と分析・まとめと表現)に取り組んでいる方がポイントが高い結果であった。ただ、小学校では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、全国や大阪府より低かった。各校において、総合的な学習の時間での探究的学びを行っていくにあたり、自己選択自己決定を取り入れたり、その学びを各教科へ広げ、より深い学びの実現に向けて授業改善に努めていく。

小学校の「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」、中学校の「国語の勉強は好きですか」「数学の勉強は好きですか」の設問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定群の回答が50ポイント台、中学校の「英語の勉強は好きですか」では47ポイントであった。児童生徒の「好き」（好奇心）を引き出すような課題の設定を行い、「わかった」「できた」「やってみよう」という達成感を得られるような授業づくりを進めていく。そして、「やってみよう」「できそうだ」という次の学びの好奇心へとつなげることにより、自分の「好き」を見つけて協働・探究していこうとする児童生徒の育成に努めていく。

課題解決に向けた今後の市としての取組み

調査結果より

☆目的に応じて、根拠を明確にし、自分の考えをまとめて表現する授業の充実

- ①すべての教科で相手・目的を明確に提示し、文章を書く
- ②資料から必要な情報を選び、設定された条件を踏まえて書き表す
- ③課題や目的を意識しながら、周りの発言と自分の考えを比較し、整理して考えをまとめる
- ④推敲を通して表現をより適切なものにしていく

市として進めていくこと

★自分で考え 自分で決めて 自ら行動する主体的に取り組む授業

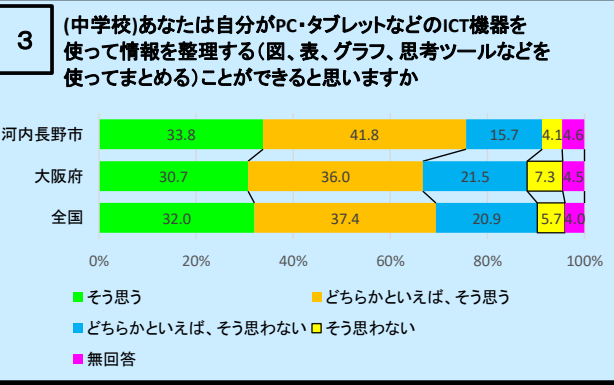
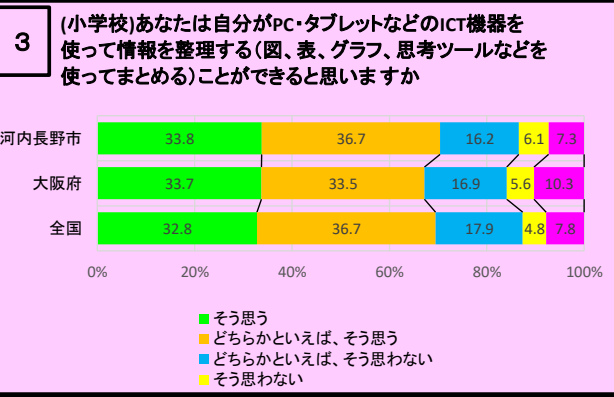
- ①一人ひとりの「好き」(好奇心)を引き出すような課題の設定、自分に合った課題や方法を選択・調整する場面の設定
- ②他者との協働を通して、課題解決に取り組む学習活動の設定
- ③課題解決に向けて、主体性を発揮し情報を集めて整理したり、自分の考えをまとめたり探究していく授業

★ICT機器を活用した学習活動の充実

- ①自分の考えを表現する道具として活用するとともに、他者の意見と比較したり、様々な考えを交流し、自分の考えを再構築したりする場面の設定
- ②シンキングツールを用いて考えを整理し文章の構成を意識しながら、表現を工夫する場面の設定
- ③遠隔合同授業を学校間で実施し、小グループで協働して課題解決したり、考えを深めたりする場面の設定
- ④デジタル教材、学習アプリの活用の推進（eライブラリ、BASE in OSAKA、ロイロノート、スタディアアプリ等）

★学校全体で組織的に取り組む授業改善

- ①主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業づくり
- ②各教科において、「自己決定」や「自己調整」しながら学ぶ授業づくり
- ③教育活動全体で言語活動の充実



小・中学校ともに、1人1台学習者用端末などを積極的に活用した授業が進められていることがうかがえる。今後は、目的や意図に応じて自己選択自己決定をしながらICTを活用したり、他者と協働し意見を比較しながら自分の考えを広めたり深めたりできるよう、効果的な活用を意識した授業づくりを進めていく。